

環境の世紀 13 第 9 回講義 (2007 年 12 月 17 日)

「国際リサイクルの現状と課題」

一橋大学大学院経済学研究科 山下英俊先生 (2 回目)

講義要約

【前半】

今日、国際リサイクルが進展する中で公害輸出といった問題が生じている。そうした問題に対応するための貿易規制は必ずしも最善の策とは言えない。むしろ、国際的な物質循環を前提とした上で、汚染性の原因となる物質を含まない製品の開発が必要だ。すなわち、廃棄ではなく、製造の段階から汚染性を取り除くという発想の転換が迫られている。ただし、現状では汚染の可能性がある製品への対処も重要だ。公害輸出を防ぐにはどうしたらよいかについて、中国の例を挙げながら制度設計のあり方を考えた。

【後半】

武田邦彦氏の「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」の冒頭部分を取り上げて、あえて疑問符をつけながら読み進めて容器包装リサイクル法が抱える問題点について考えていく。また、EPR における生産者とは誰かなどの社会科学的な議論を講義の補足として行い、最後に環境問題における 2 つの異なる方向性（技術的解決と社会的・制度的解決）の考え方を例を挙げながら示す。

